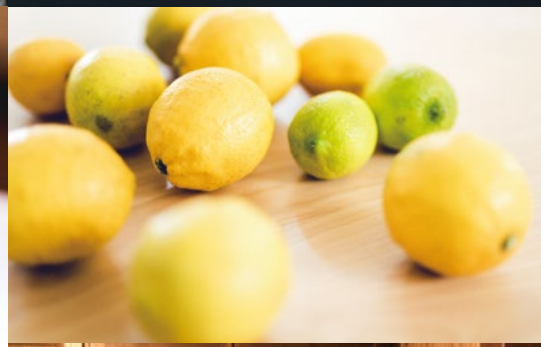
愛媛で暮らす人たちに聞いたこと。

居心地の良い場所には、魅力的な人がいる

えひめの息ぬき

TAKE FREE

愛媛ふるさと暮らし応援センター



“息ぬきスポット”をつくる人のストーリー

P2　卯之町バール OTO（西予市）　藤川朋宏さん

P8　コワーキングスペース新居浜びず（新居浜市）　柳川あこさん

体験して、ほっとひと息できる場所の物語

P16　三津浜暮らしを味わう（松山市）　旧鈴木邸

P22　シェアから生まれる（内子町）　シェアアトリエなるた

ひと休みの参考に。えひめ情報

P14　えひめの食材で、息ぬきレシピ

P26　えひめのお取り寄せで、お家時間

P28　まちに暮らす、あの人たちの息ぬき

愛媛の人・地域とつなぎます

P29　愛媛ふるさと暮らし応援センター

一般社団法人えひめ暮らしネットワーク

居心地の良い場所には、魅力的な人がいる

えひめの息ぬき

忙しくて息苦しさを感じる時、疲れ果てた時、
あなたなら、どのように一息つくでしょうか。

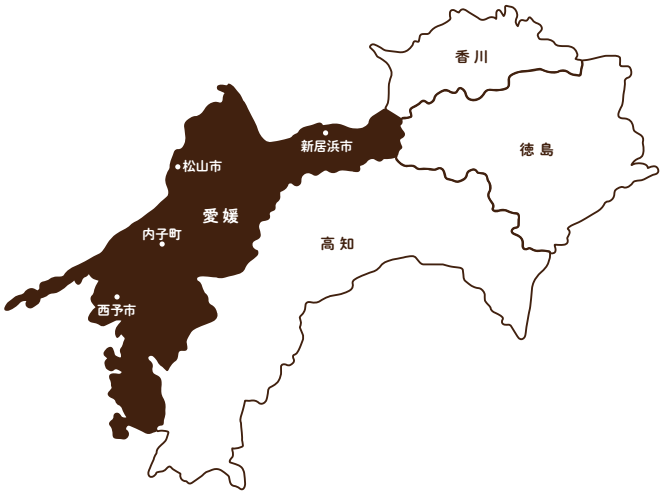
四国の左上に位置する愛媛。
穏やかな瀬戸内の海、太陽の光を浴びて、たわわに実るミカン――。
そんな愛媛で暮らすイメージは、のんびりとしたものかもしれません。

とは言っても、実のところは忙しい。
ほっと一息つきたくなる時は、誰にでもあるのです。
そんな時に訪れたい場所をご紹介します。

そこには地域に灯りをともすかのように、
居心地の良い場をつくる人たちがいました。

そのあたたかさに触れたなら、
誰もがきっと満たされるはず。

一息ついたら、また一歩踏み出そう。



息ぬきスポットをつくる人

ここに来れば元気になる。心温まる、絶品の息ぬきを召し上がれ。

愛媛暮らしを温かく、ゆたかにする、
最高の息ぬきスポット。
それは、人が自然と集まる場所。
そして、息ぬきの場所をつくる人は
まちを愛する人。
そんな“つくる人”の、ものがたり。
まずは、小さなまちの、
小さな洋食居酒屋を営む
店主のことからお伝えしよう。

一枚杉板のカウンター席には、オーナーとの会話を楽しみにする常連客が座る。

息ぬきスポットをつくる人 ①

卯之町バールOTO・オーナー

藤川朋宏さん

ふじかわ・ともひろ

オーナーの藤川朋宏さん。妻の晶子さんと一緒にお店を営む。夫婦の掛け声は「集中！」

自ずと湧いてきた、「地域のため」

宵の通りに、柔らかく大きな光が一つ。外に漏れる、人たちの気配は底抜けに明るい。

愛媛県の南西部にある西予市宇和町は、米どころで知られ、山に囲まれた盆地につくられたまち。そんな宇和町の、江戸中期から昭和初期の建築物が軒を連ねる「卯之町の町並み」に、「卯之町バールOTO」はある。地元はもちろん、地元外からも人が集う洋食居酒屋を営むのが、店主の藤川朋宏さんだ。

ランチのカレー、ピザ、一品料理は遠方からも求めるほどの絶品。
「ぼくたちは料理人ではない。自分たちがおいしいと思うものを提供しているだけです」

藤川さんは宇和町で生まれ育ち、大学で東京へ。卒業後は、バンド活動をしながら、飲食業のアルバイトに勤しんだ。

「飲食店があふれる、大好きな三軒茶屋で暮らす日々は楽しかった。でも、人も多い雑多な空間は、精神的に疲れてしまうんです。ずっと住む場所じゃない。40歳で帰ろうと思っていました」

そのチャンスは10歳前倒しで訪れる。愛媛に住む友人から「西予市が『地域おこし協力隊』を募集している」と聞いた。初めて耳にする国の制度。まちのために活動するというミッションに、「地元に恩返しがしたい」と思っていた藤川さんは「これしかない」と決意する。募集締め切りの3日前のことだ。

2015年、同郷の妻・晶子さんと一緒に、戻ってきた。

協力隊の任期は最大で3年。給料をもらいながら、その間、"自立"の道を考える。ノープランで戻った藤川さんは、「ここに暮らす人たちに必要なもの」を考えるうちに、人が集うようなコミュニティスペースを作りたいと思うようになる。

豊かな自然、何もかもがほどよい暮らし、標高の差が育む食のバラエティとおいしさ、温かく見守ってくれた地域の大人たち。離れて知る、宇和のよさ。知らずのうちに、このまちの役に立ちたいという想いが育まれていた。故郷で、自分の居場所を自分の力でつくりたいという望みもあった。これまで培った経験が活きると、飲食店を開くことに決めた。

一帯はかつて、宇和島藩の在郷町・宿場町として栄えた。国の重要伝統的建造物群保存地区にも指定。

プレッシャーのち、自分のペースで

選んだ場所は、人づてに紹介された、卯之町の町並みで異彩を放つベンガラ色の元喫茶店。一目惚れしたものの、資金もなく、踏み出せない藤川さんに、クラウドファンディングでの資金調達を勧めたのは、行政の人だ。

「責任を持ってやってくれる人」「まちをおもしろくする人」。そんな藤川さんへの期待感が求心力を呼び寄せ、背中を押されるように物事が進む。

怒涛の末に、クラウドファンディングの目標額を達成。建物の権利問題で一年間足止めを食らい、「一番しんどかった」という準備期間を経て、卯之町バールOTOはオープンした。クラウドファンディング、協力隊の出身、町並み保存地区の古民家活用と、ストーリー揃いの開店にメディアの取材が相次いだ。

高校時代、地元強豪のバスケットボール部でキャプテンを任されるほど、強い責任感の持ち主。プレッシャーで、常に立ちくらみを抱えつつ、店に立ち続けた。

「せっかくみんなが協力してくれた店なので、期待に応えなきゃという思いが強かった。店のことに集中できるようになったのは、1ヶ月を過ぎてからでした」

食べものや飲みもの、雑誌、チラシなど、店をつくる一つ一つに日々、変化する種を探す。その時間が好きだという。飽きさせないように絶えず考えられた空間でありながら、時間が経つのを忘れるほど、居心地がいい。

それは、「とことんこだわった」座り心地だけでは生まれない。客一人一人の表情だけではなく、客同士の間合いにも目を向ける、藤川さんのさりげない心くばりのたまものだろう。

休憩時間に店外のテーブルでくつろぐ夫妻。「こんな時間はほとんどないですけどね（笑）」

地元のお店で食べる、という息ぬき

OTOが宇和に生まれて3年。閑散とした通りに、人の行き来を生み出す存在になった。

「お店にわざわざ来てくれるのは当たり前にうれしいですが、ここに訪れることで卯之町の町並みの美しさを知ってもらうのもうれしくて。自然な流れでお客さんにおすすめの場所を教えると、『いいことしているな』って思うんです（笑）」

そんな藤川さんの息ぬきは、週1回、地元のお店で夜の外食をすること。

「お店の人やそこに居合わせたもの同士でワイワイと過ごす。人とのつながりが感じられる場所は楽しいです。自分にとって欠かせない時間ですね。ぼくの店のそばには牛乳屋さんも醤油屋さんも、酒屋さんもある。ここの暮らしが好きです」

おいしく心地よい息ぬきの場所を日々構えながら、まちのよさを伝え、まちの営みを大切にする。

藤川さんの生きざまが満ちるOTO。ともに成長したいと、娘の名から付けた名店は、まちの灯そのものであり続ける。

上＿藤川さんセレクトの各地のクラフトビールがそろう。その数、13銘柄約50種類。店を始めてから、おいしさのとりこになった。「クラフトビールを飲むのも息ぬきの一つです」
下＿地元のブランド牛「はなが牛」を使ったカレーも美味。

卯之町バールOTO
愛媛県西予市宇和町卯之町 3-216
営業時間 :11:30〜14:00（L.O.13:30）、18:00〜23:00（L.O.21:00）
営業日 :水曜〜日曜
Instagram :
@unomachi.bar.oto

黒島海浜公園は、柳川あこさんの推し息抜きスポット。市内には公園が多く、子どもと楽しめる。「子どもにとってその場にあるフィールドがおもちゃ。お金もかからない」

息ぬきスポットをつくる人

ゆるく、つながる場は、クリエイティブなアイデアが生まれて、形になるところ。

新居浜市初のコワーキングスペースは、
仕事に集中するだけでなく、
気軽に話せて息抜きもできる雰囲気。
それは、人とゆるくつながりながら、
新しいアイデアを実現させていく、
そんな場所でありたいから。
クリエイターとして築いた場は、
十分な手応えを得て、
2021年、新たな挑戦が始まる。

息ぬきスポットをつくる人 ②

コワーキングスペース新居浜びず

柳川あこさん

やながわ・あこ

コワーキングスペースは、柳川さんが代表を務める株式会社ミカンワークスの事務所も兼ねている。オフィスというよりも、部屋にお邪魔したようなアットホームな雰囲気。ふと生まれたアイデアを柳川さんに話しかけやすい距離感だ。

「コンセプトは、ゆるく、つながる」

子連れOKとしていて、赤ちゃん連れのママさんには便利なソファー。そんなママさんにとっての息抜きスポットでもある。

フリーランスのクリエイティブディレクターであり、市内で「コワーキングスペース新居浜びず」を運営している柳川あこさん。仕事のアイデアが行き詰まった時や、冷静に落ち着こうという時に、ふらりと訪れているという黒島海浜公園はお勧めの息抜きスポットだ。新居浜市には公園が数多く存在し、海と山の自然を満喫できるのも魅力の一つ。ショッピングセンターもあり、子どもを好きなイベントに連れて行ったり、人の行動を観察できて、仕事のアイデアにも生きている。どちらも車で数十分のアクセスで、クリエイティブと子育てとの両方に必要な場だ。

柳川さんのクリエイティブの拠点「コワーキングスペース新居浜びず」は、新居浜市港町にある（2021年3月現在）。「ゆるく、つながる」がコンセプト。ふらっと立ち寄って、利用者同士で悩みやアイデアを気軽に話したり、そこから人がつながって新しいことが生まれる、そんな場づくりを大切にしている。

そのために、カフェではないこと、仕事や勉強、読書、パソコン作業、充電などのために自由に過ごせる場であることを明確に発信している。空間も工夫されていて、仕事に集中しつつも、ふとした時に、話しかけやすい距離感だ。傍にはソファーがあり、気分転換を図ることも可能。自分たちでDIYして壁や天井を塗り、棚を作ったことも、アットホームな雰囲気につながっている。そんな居心地の良さなのか、フリーランスの人だけでなく、学生や赤ちゃんを連れたママさんなど、様々な人が訪れる。

「喋るだけでも楽しいし、ここで本を読むだけでもいい。家族以外のコミュニティができたとか、仕事をもらえたみたいな話が聞けて嬉しい」

「発信」という武器を磨いて生まれたリアルな場

2016年に大阪から新居浜市に移住した柳川さん。前職では、大阪のゲーム会社でディレクターとして多忙な日々を送っていた。結婚を機に、自分の仕事は場所を選ばないこと、いずれは子育てでワークライフバランスが変わることを考えて、ご主人の故郷・新居浜を選択。移住した年に独立し、ゲームのプランニングやウェブサイトの制作等の仕事をしている。

「私が仕事を取ってくるから」と頼もしい柳川さんだが、移住した当初は、「コネなし、知り合いなし。ゼロからゲームを始める気分だった」と当時の気持ちを語る。

「出勤した夫が帰るまで、コンビニで『ありがとう』しか言ってないぞって気付いた時、さすがにやばいと思いました」

そんな寂しさを発散したいと始めたのが、地域情報サイト「新居浜びず」。サイトを立ち上げ、新居浜を中心としたグルメやイベント情報などを柳川さんの独自の視点と文体で紹介。さらに、実現させたいアイデアもオープンに綴っていく。インプットした情報や考えを整理してアウトプットすることは、柳川さんがこの地で心地よく呼吸するためのポジティブな発散であったのかもしれない。

1_ 蛍光灯に木枠をつけてフェイクグリーンを飾ったことで、無機質ではなくあたたかみのある空間に。　2_ 西条市の酒井屋珈琲とコラボしたオリジナルのブレンドコーヒー。昭和、平成、令和をイメージした３種。　3_ 世界を旅している利用者の方が集めたカラフルな雑貨を販売。　4_ 児童文学作家の上田千尋さんがスタッフとして加わる。子ども向けのイベントや制作物をつくる時の強力な味方だ。　5_ 図面を描けるご主人が制作した棚。ご主人は、柳川さんのアイデアを応援してくれる良き理解者だ。棚では、柳川さんがセレクトしたものやクリエイターの作品を販売。　6_ 新居浜を拠点にスパイシーな料理を食べ歩く、「にいはまスパイスガールズ」のオリジナルグッズ。　7_ 本の物々交換「旅する本」の棚。以前の持ち主のメッセージが添えられている。　8_ 譲り受けた古いテープレコーダー。ディスプレイとしても存在感があるが、実際に聞けるそうだ。

そんな柳川さんのユニークな発信に、着実に読者が増えていく。読者とリアルに交流できる場が欲しい、自分の仕事場も持ちたいという思いが次第に強くなり、思い描いた形がコワーキングスペースであった。そこで四国の情報を記事にしたり、自分もそんな空間を作りたいと発信しながら動き始めた。新居浜では、まだその言葉自体が知られておらず、一から説明しなければならない場面もあった。そんな驚きも含めて、物件の購入や天井を塗ったことを発信していたら、手伝わせてほしいという人たちが現れ、DIYの作業を手伝ってくれることに。そんな場所ができたら嬉しいから開店祝いと称して、物資を提供してくれた人もいた。

「なんか助けてもらっている感がいろいろあって、大事にせんとなあって。愛媛ってそういう助け合う感じなんでしょうかね。特に新居浜は大企業があって、人の出入りが常にあるので、地元と余所者の分け隔て感がない。心地よいというか新居浜で良かったというのはありますね」

人がつながり新たなコトが生まれる場に

2019年7月にオープン。徐々に県外からの利用も増えていく。

「みんな自分で調べる力があったり、情報発信力を持っていたり、能力を持つ人が多くて、ここはそんな人たちをつなぐ役割にもなっています」

ここで出会った人たち同士で「にいはま一箱古本市」というイベントも生まれた。

また、市内の施設を巡り、昔話を集めるスタンプラリー「ハマモンクエスト」という市の委託事業も手がけた。

「新居浜には昔話がめっちゃあるんですよ。でも子どもたちは、みんな知らずに市外に出てしまう。だから、キャラクターを作って、昔話を知ってもらえたらなあって。それをここで知りあった人たちに話したら、じゃあやろうってなった」

自分のアイデアを形にしたり、誰かの相談には心当たりのある人を紹介したり、アイデアを実現させる場となった。そんな思い出の詰まった場所の移転を決意。

「ワイワイする場所としてはすごく機能したんですけど、一人で作業に集中したい人には不向きだなあって思っていたんです。もともと、小さく始めて軌道に乗ったら大きいところに移ろうと思っていたら、たまたま良い物件に出会って」

その物件は2階建ての空き店舗で、活用に夢が膨らむ（13ページ）。しかし、リスクも伴う。「失敗したらどうしようとか確かに思うんですけど、最悪どこかで働けば返せるくらいの返済額にしておくとか、ここまでになったら撤退しようみたいな判断基準はつくっているかもしれないですね。それまでは大丈夫だから進む」という、迷いのない答えが返ってきた。

ゲームに例えるなら、武器を磨き、城を築き、共感できる仲間を増やしてきた柳川さん。これから新たな地で築く城も、ゆるくつながり、生まれたアイデアを実現させながら進んでいくのだろう。

柳川さんの物語は続く。

昭和の雰囲気は残しつつ、
生まれ変わる姿を
乞うご期待！

商店街の近くの元和楽器屋さんが、クリエイティブの発信基地に

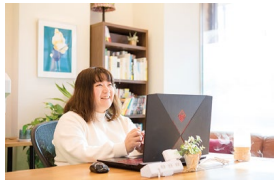
新居浜で第一号のコワーキングスペース「新居浜びず」。2021年5月に、喜光地町の築約50年の空き店舗に移転予定だ。元・和楽器屋の二階建ての建物は、現役時は、和楽器の教室で生徒が集まる場所だったそうだ。そんな歴史を踏まえながら、人が集える新たな場として生まれ変わる。1階にはワイワイできるスペースを、2階に集中できる個室スペースや会議室を設置予定だ。

この物件を見て、「ビジネス的に、ああもうここやわ」と感じた柳川さん。面する長田通りは歩き遍路の通り道のため、国内だけでなく海外の人とも交流したり物販を手に取ってもらえる可能性がある。また、住宅の分譲が進むエリアでもあり、保育園も近く、若い子育て世代が多い。そのため、シェアキッチンをつくり、パンやお惣菜を販売すれば、子どもの送り迎えの途中で購入してくれたり、スキルのあるママさんがシェアキッチンを運営する仲間になることも考えられる。

特筆すべきは、1階に併設する工作室。活版印刷機、3Dプリンター、布プリンター、レーザー加工機、ポスターが出力できるプリンター、シルクスクリーン製版機などを設置予定だ。ここで生み出された作品は、併設する「一箱のデパート」で販売できる仕組みも考えている。「地方はデザインの地位がまだまだ低い。つくるものに対する価値を上げていきたいです」

これだけ設備が整うと、新たな仕事が生まれそうだ。「ゆくゆくはギルドボードみたいなことがしたいんです。この仕事できますとか、こんな仕事をできる人が欲しいとかを貼り出して、マッチングするような」と語る柳川さんのアイデアは尽きることがない。

息抜きできて気軽に語れる居心地の良さはそのままに、一歩踏み出したい人の背中を押してくれる、クリエイティブを育てる場として期待される。



コワーキングスペース新居浜びず
愛媛県新居浜市港町 3-211 港町ビル 1F
営業日：月・水・金
営業時間：10:00-16:00
https://niihama.biz/
※2121 年 5 月に移転予定。詳細は
「新居浜びず」のサイトをご覧ください。

えひめの食材で、息ぬきレシピ

島のレモンと鯛で ほっと一息

柑橘王国愛媛ではレモンの生産も盛んで、全国2位の生産量を誇る。そんなレモンを使ったレシピを教えてくれたのは、「惣菜工房やの家」を主宰する矢野加智子さん。

一つは、「塩レモン」。これ一つあれば、スープや炒め物など、様々な料理に使える万能調味料だ。レモンを切っていると、辺りに爽やかな香りが漂い、つくるだけでも心身ともにリフレッシュできる。もう一つは、余ったレモンと、愛媛の鯛を使った「鯛のレモンソテー」。レモンの酸味、鯛の旨味、生クリームのコク、マスタードの食感が口の中で広がる一皿だ。

矢野さんの息ぬきとは、「そうねえ。全部が息ぬき。自分が好きなことしかしていないから」と何とも明快な答えが返ってきた。会いたい人に会う、美味しいものを食べる、本屋で新しい本に出会う。どれも欠かせないことで、その出会いが矢野さんのつくる場に生きている。

そんな矢野さんの料理教室では、意外な食材を組み合わせるアイデアや、忙しくてもつくりたくなる料理が学べる。参加者にとっては、愛媛の美味しい食材やお店の情報交換の場に。「簡単でないのは料理じゃない」と語る矢野さんが伝える、簡単でもインスタントではない、ひと手間かけた愛媛の味をお試しあれ。

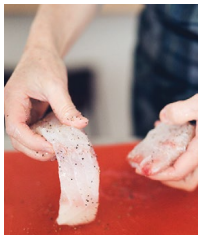
鯛のレモンソテー

＜材料（2人分）＞

・レモン	2個
・鯛（切り身）	2切れ
・塩	少々
・粗びき胡椒	少々
・バター（有塩）	30g
・生クリーム	100mL
・プチプチマスタード	大さじ2
・オリーブオイル	大さじ2〜3
・クレソン	分量外

＜つくりかた＞

1. レモン1個は包丁で皮を剥いて5mmくらいの輪切りに。もう1個は搾る用に半分に切る。
   ※剥いた皮は、捨てずに取っておいて（冷凍も可）、パスタを茹でる時に入れると良い。
2. 鯛に塩・胡椒を振り、手で揉みこんで馴染ませる。
3. 中火で温めたフライパンにバターを入れて溶かし、2の鯛を皮目を下にして焼く。皮に焼き色がついてきたら、オリーブオイルを入れ、鯛をひっくり返す。
4. 焼き色がついたら、生クリームを入れ、プチプチマスタードを入れる。
5. レモン汁を振りかけ、レモンの輪切りを入れたら、すぐに火を止める。
6. 5.の鯛とレモンを皿に盛り付け、フライパンに残ったソースを鯛にかける。クレソンを添えて、完成。



塩レモン

＜材料（1L分）＞

・レモン	約1kg ※皮ごと使うので無農薬のものを
・塩	100〜150g （レモンに対して10〜15%）

＜準備するもの＞

・煮沸消毒した密閉容器（1L）

＜つくりかた＞

1. レモンを洗う（無農薬でない場合、お湯洗いと水洗いを3回繰り返す）。
2. レモンのヘタを切り落とし、6等分のくし切りにする（種は取り除かなくてもよい）。
3. 密閉容器にレモンを並べて塩を振る、を繰り返す。ギュウギュウに詰め込んで最後は塩を振り、蓋を閉める。
4. 冷蔵庫で保存する。1週間ほどすると水分が出てくるので、容器の上下を変えて混ぜ、1ヶ月ほどで完成。

＜塩レモンの使い方＞

調味料として、塩の代わりに使うことができる。

【使用例】

○タマネギをスライスしたスープにひとかけ入れる。ブレンダーでペースト状にして、スープに。
○肉や魚、エビを炒める時に、塩の代わりにひとかけ入れる。
○容器の底のとろみのある液体とオリーブオイルを、茹でたパスタに絡める。

レシピを教えてくれた人

矢野加智子さん／松山市在住

「惣菜工房やの家」主宰。料理教室やケータリング、イベント出店のほか、自らイベントを企画することも。手がけている Ride on 市は、県内の優れたつくり手が集まる人気のイベントだ。

Instagram　@yanoya1

左が家主の岡崎麻祐子さん。中央が宿泊者の武田由梨さん。右の三線を弾いているのは武田さんのご主人で、朝ごはんを食べて出勤だ。

歴史ある「旧鈴木邸」で三津浜暮らしを味わう

瀬戸内海に臨み、港町として栄えた松山市三津浜に佇む「旧鈴木邸」。明治後期の建築当時の面影を蘇らせた空間は、どことなくあたたかい。その姿を残せたのは、まちを想い活動してきた人々と、受け継いだ岡崎麻祐子さんの存在が欠かせない。ここで暮らす魅力を伝える岡崎さんの取り組みを体験し、三津浜に通い続けて住むまでの話を聞いた。

旧鈴木邸を訪れた武田由梨さん。家主の岡崎麻祐子さんの案内で、まずは三津浜を歩いてみた。

「お店の人とお喋りしながら、地元のお醤油や魚など、日用品が買えるっていいですね。カフェでは地元の人やお客さんとも一体になって話せて、そうした三津浜のフランクさが楽しいです」

三津浜の暮らしに興味がある武田さんにとって、ローカルな人や物に触れる案内は満足のようだ。身近な自然も好印象。

「船で渡って港山城跡に行ったのは予想外の展開。土に触れながら、自分よりも背の高い緑に囲まれるのが好きなので、こういう自然溢れるお散歩コースが近くにあることに驚きました。三津浜で暮らす良いイメージにつながりましたね」

途中で物件の内覧会に遭遇し、ご好意で見学させてもらう。歩けば、そんな何らかのハプニングに出会えるこのまちを「日々の生活が映画のよう」と岡崎さんは語る。「マイペースでやりたいことをしていて、自分らしく暮らせるまち」とも。だから、ほっとできるお店が多いのかもしれない。

古建築を生きた場所に

武田さんが宿泊する旧鈴木邸は、明治後期の建物で、材や意匠のこだわりに、当時の風流な人々の暮らしを見ることができる。不思議な縁で、岡崎さんが受け継ぐことになった。

そもそも岡崎さんが古民家に魅了されたきっかけは、鯛メシ屋「鯛や」だった。文化財の建築で、古いままの空間が生きた場所として使われていることに衝撃を受け、その後、取り憑かれたように三津浜に通い続けた。ちょうどその頃、古民家「木村邸」の活用が模索されており、「何かあったら責任を持つからやってみたら」と、管理人をしていた商店街のイタリアンレストラン「フロア」店主に背中を押され、その運営に携わることになった。

そんな折、旧鈴木邸が壊されるかもしれない噂を耳にする。三津浜煉瓦工場で焼いた陶製の欄間や茶室が印象的で、三津浜の景観上、重要と感じていた建物を何とか残したいと働きかけていたら、2年後にやっと家主と話ができた。木村邸での活動実績、そして三津浜の歴史と文化を繋げたい想いが伝わり、その場で「買わないか」という話になる。岡崎さんの返事は、「明日、銀行に相談に行ってきます」。即決だった。

住み始めた当時は、新建材でリフォームされた部分もあり、昔の建築の価値を再生させる改修に着手する。「無謀だとあとで気付いたんですよ。でもその頃、三津浜の古民家に魅力を感じた地域内外の人たちと、講演会や保存活動などを行って、それが古民家改修を助成する制度につながった。そのおかげですね」と、三津浜を想う人々の気運の高まりがあり、今の姿に至ったことを振り返る。

ぶらり三津浜まち歩き

三津浜暮らしを満喫している岡崎さんと一緒に、
古建築や商店街のお店などを巡った数時間。
ユニークであたたかな人との出会いに、また訪れたくなる。（MAPはP20）

体験した人：武田由梨さん
2017 年に東京から愛媛に移住。上島町で book café okappa を女性 2 人で営んでいたが、ご主人の転職を機に松山市へ引っ越し。現在は建築設計・監理の仕事をしている。松山での暮らしは 1 年未満で、現在、市内の一息つける場所を開拓しているところ。

1

三津の渡し。渡し舟が港山と往復していて、約 2 分で対岸に運んでくれる。市道であることに驚く。海の風が心地よい。

2

港山城跡。静かな竹林の中を歩いていると、まちの喧騒を忘れられる。岡崎さんもよく散歩するそうだ。

3

竹林を抜けて、山頂広場に到着。忽那諸島や梅津寺エリアが見える。行き交う船を眺めながら、ほっと一息。

4

魚屋「丸忠」で今晩の食材を購入。新鮮な魚が安く手に入る、岡崎さんにとってのワクワクスポットなのだそうだ。

5

当時の繁栄を偲ばせる古建築のまち並みを歩く。子規も歩いた風景を思い浮かべると、また違って見えてくる。

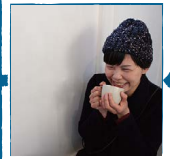
6

誰が書いたのか気になった「止まれ」の文字。まちのあちこちに発見があり、訪れるたびに新鮮な気持ちに。

7

商店街には、古くから続く金物屋や惣菜屋がある。さらに移住者による個性的なお店も増えてきている。

8



歩き疲れた後は、ICOI COFFEE で休憩。テイクアウトして、隣の土宮のある公園でのんびりするのもいい。

9

岡崎さんお勧めの三津浜夕日スポットを案内してもらう。沈む夕日を前に、写真を撮ったり、二人静かに佇む。

10

夕食は、昼に購入した魚を炭火で炙る。仕事を終えた武田さんのご主人も合流。心地よさに遅くまで語り合う。

2 階でくつろぐ武田さん。「ここでは本や紙を相手にして過ごしたい。そう、日記や手紙を書くのもいいですね。スマホを置いて、ゆっくり、自分に集中できます」

写真右より、（上）_ 三津浜煉瓦工場で作られた珍しい陶器の欄間。旧鈴木邸は煉瓦工場の社長であった鈴木重義氏の住居でもあったという歴史を持つ。（下）_ 書道教室も開かれている。 ／投函した手紙が、時間をかけて届く「かたつむりPOST」。未来の自分に手紙を書いてみては。 ／ 2 階の書斎。以前の住人の蔵書が残されている。 ／古道具が空間と調和しているエントランス。物販やトークのイベントを開くことも。オリジナルポストカードを販売している。

暮らしを五感で感じる

伝統構法に精通した設計者や、職人が腕を振るい、ボランティアの力も借りて、当時の面影を偲ぶ空間が蘇った。障子越しの光の美しさ、夜の静けさ、庭の四季の移ろい。日々、そこで暮らす発見を誰よりも感じているのは岡崎さんだ。その魅力を伝えるために、2020年より民泊を始めた。「住みながら残すために、生業としてどう成り立たせるのか。悩みながらですね」と試行錯誤を打ち明ける。

その空間に身を置いた武田さん。「欄間とか、細部の意匠は確かに素敵だけれど、この場所は空間と岡崎さんの魅力だと思う。心地良さを届けられる空間って何だろうと浸りたくなりますね」と自身の設計の仕事にも考えを巡らす。

三津浜のまちと建物に加えて、岡崎さんの暮らしを味わえる旧鈴木邸。訪れる人と作る、ここだけの体験が待っている。

旧鈴木邸
愛媛県松山市三津 1 丁目 3-13
https://9suzukitei.amebaownd.com
※宿泊予約や見学、まち歩きの相談は、HP をご覧ください。

縁側に腰掛けて、茶室に続く庭を眺める。庭の木々や草花は、移りゆく季節の訪れを教えてくれる。雨の日の敷石が清れた風情も美しい。

旧鈴木邸岡崎さんおすすめの 三津浜 MAP

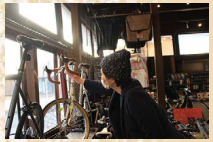
…岡崎さんガイド □…おすすめ ●…食べる ●…お店や施設など

三津浜が一望できる
港山城跡
湊三嶋神社
室町時代から活躍し続ける現役の渡し舟。市道の一部でもある
渡し舟
画家・上村菜々子さんが三津浜の風景を描いた壁画
上村菜々子 ART壁画 1
川沿い一番出し通り
商栄町
丸木醤油 醸造元
木村邸
古民家を活用し、イベントやカフェが開かれている
塩元売捌所
どの料理もお勧め。モーニングあり
旧鈴木邸
P
江戸時代の蔵の中にある、お好み焼きいずみがお勧め
カフェテリア sono
有形文化財。座敷で鯛めし膳がいただける
鯛や
ギャラリー吉川
漁師の奥さんが新鮮な魚を販売
居酒屋なだまる
旧石崎汽船本社ビル
丸忠 ①
② Tukuroi
魚屋かあちゃん
ここの五本指ソックスがお気に入り
有形文化財登録の洋風建築
上村菜々子 ART壁画 2
③ Bitter & Sucre
太陽と月
リノベした建物に雑貨店などが入居しているシェアショップ
みつのぼ
上村菜々子 ART壁画 3
松山三津〒郵便局
昭和4年前まで町民に利用されていた井戸
野菜の創作料理が人気
辻井戸
④カイエンドー
かわいいレトロな建物
三津にはお醤油屋さんが4軒も残っている
遠藤味噌醤油 醸造場
⑤ 茶舗 de la música
大正時代にできた、松山で最初の公立図書館（月曜休館）
松山市立 三津浜図書館
美味しい！楽しい！パンとアメリカン雑貨の店
TOYS BREAD FACTORY
ラ・ムー松山西店
松山市役所 三津浜支所 三津浜公民館
築60年の古民家を改修したシェアショップ
新刊、ZINEなども扱う本屋。本好きにはたまらない
蛙軒
みつのわ
自然派食堂 Vegetable
ヴィーガンランチ弁当が美味しい
三津浜小学校
〒 梅田郵便局
風景印が押せる郵便局
戦前のクレーンが残る
(株)瀬村製材所
三津浜の歴史資料などが勢揃い。三津のことならなんでもお任せ！
怒和島出身の名物店主が地元素材にこだわりながら営む喫茶店
島のモノ喫茶 田中戸
県産の木の雑貨に触れられる
木生活
松山住吉郵便局〒
開店と同時に売り切れになる人気のじゃこてん屋
みつはまレトロ
練や正雪
ちゃんからす
フロア
ワインにあう地元食材の料理を楽しめる
レストラン AKARI
ビストロ サンジャック
お好み焼きみっちゃん
極上のフレンチレストラン
住吉公園
革修理工房 Reterra
ヤング
味々
楠原金物
N's Kitchen** & bbo
ヨネヤ旗店
工房空
アトリエココ
餃子のぶとおから
三津浜商店街内の憩いの場。第1・3土曜は、県内の生産者が出店するワニナルバザールが開催。美味しい食を楽しめる
⑥旧濱田医院
⑦ミツハマル
⑧Atelier 朔
⑨花の環 daisy
⑩ピクチャーブックライブラリーくらら
商店街の頼れる元商店街会長
行列のできるカリスマパン屋さん
三津のアーティストの秘密基地的なアトリエ
東京で音楽活動をしていた夫妻が営むタコスバー。ライブも開催
厨～くりや～
地元の野菜や魚たっぷりのごはん屋さん
国産原料、天然醸造の醤油・味噌
田中屋(株)
Mittan(三津庵) Guest House
お洒落な一棟貸しのゲストハウス
お守りが充実。時々、オーガニックマーケットをやっている
三津厳島神社
お菓子のカールが作られている
四国明治(株)松山工場
お魚の鮮度抜群！
そごうマート
Slow Aging Cafe Yukichi
三津浜ロールが有名。ランチがお勧め
素材の味を生かしたイタリアン。三津浜チョコレートも人気
洋菓子もある和菓子店。喫茶コーナーがあり、三津駅内のサロン的存在
伊予鉄道 三津浜駅
風月堂伊予鉄 三津駅店
レンタサイクルの受付場所
ラーメン、餃子が美味。個性的な店主も人気の秘密
⑪ ICOI COFFEE
(株)村要本店
学校の校舎を移築した醤油の醸造所
麦宿 伝
オリジナルのクラフトビールが飲めて、地元の人と旅人が交流できるゲストハウス

①丸忠
その日仕入れた新鮮な魚が買える、岡崎さんのお勧めの魚屋。不定休。
松山市三津一丁目3-1魚庄ビル

②Tukuroi
家具の修理と北欧ヴィンテージ家具の販売。座り心地を体感できる。
https://tukuroi.info

③Bitter & Sucre
永く大切に使いたい暮らしの道具に出会えるお店。
http://bitterandsucre.com

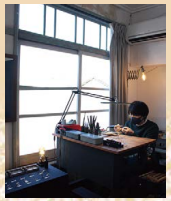


④カイエンドー
鉄の自転車と旅の自転車の専門店。古民家の空間に自転車が並ぶ。
http://caiendobikes.com

⑤茶舗 de la música
世界を旅して集めた雑貨が並ぶ。個性的な店主との話が面白い。
https://www.instagram.com/chapo0303/

⑥旧濱田医院
元産婦人科の洋館をリノベーションしたシェアショップ。⑦～⑨が入居。
http://mitsu-hamada.com

⑦ミツハマル
松山市の三津浜にぎわい創出事務所。三津浜地区の魅力や空き家の情報を発信している。
http://www.mitsuhamaru.com



⑧Atelier 朔
世界観のあるアクセサリーを制作。制作風景に出会えるかも。
https://www.instagram.com/atelier.saku/

⑨花の環 daisy
暮らしを彩るドライフラワーや県内の作家の雑貨に出会える。
https://www.instagram.com/hanano_wa_daisy/

⑩ピクチャーブックライブラリーくらら
蔵を改修した私設図書館。蔵書は、絵本、写真集、漫画が中心。
https://www.facebook.com/pic.book.lib.clara/

⑪ICOI COFFEE
地元の人にも愛される、自家焙煎のコーヒーと焼き菓子のお店。
https://www.instagram.com/icoi_coffee_/

シェアから生まれる豊かな空間

築120年の建物に
新たな息が吹き込まれた空間は、
本を読んだり、和紙に触れたり、
自由に表現したり、
そこは自分らしくいられる場所。
各々が心地よく楽しいことを
シェアすれば、
未来は希望で溢れている。

過去から未来へ ものづくりの場をシェア

手仕事のまち、内子町五十崎。小田川沿いの古い商店街の外れに佇む、成田家具店の築120年の建物が「シェアアトリエなるた」。和紙職人の店「neki-和紙とあそぶ、和紙と暮らす」、貸本屋の「ゆるやか文庫」、建築設計事務所の「graft」がこの建物をシェアしていて、何だか賑やかだ。この日は、オーナーの成田幸子さんの甥にあたる成田良治さんが自家製のスコーンとジャムを持ってきていて、珈琲でほっと一息ティータイム。良治さんは、「活気が出ていいですよね。物心ついた時にはここで家具の製造はほとんどやっていなくて。だから若い人が関わってくれて、それが馴染んでいて嬉しい」と語る。

この建物の改修を手がけたのは、graftの酒井大輔さん。現在、2階に事務所を構えるべく、準備中だ。「ここができたのは、建物よりも人ありき。成田さんとの出会いだった」と、当時を振り返る。

それは、2018年に開催された内子町の古民家ゲストハウス「内子晴れ」1周年記念のトークイベント。そこで、「古い建物は必ずしも残さなくてもいい。役目を終えて残そうという人がいないなら、壊してもいいと思う」と話した酒井さん。

「父の店を駐車場にしてしまうのは忍びない」と思っていた成田さんには強く印象に残り、酒井さんに相談してみたくなる。

酒井さんが手がけた物件を見たり、店のベニヤ板を剥いで現れた姿を見て、残したい思いがますます強くなり、やはり改修を決意する。

しかし、どのように活用していくのか、なかなか決まらなかった。絵を描くことやものづくりが好き、人が集まる場所にもしたいという成田さんに、酒井さんはシェアアトリエを提案した。

「この仕事を受けようと思ったのは、家具職人であった成田さんのお父様の存在なんです。お父様から脈々と続いているのはものづくりの心だなと思って。それを成田さんが受け継いでいるんですよ。そういう魂を持った人がここを残そうと思っているというのは、それはシェアじゃないですか。過去のつながりから未来に続く。これは設計士としてチャレンジだなと思った」

だからこそ、建物の設計だけではなく、運営面でも成田さんに寄り添った。未来というキーワードから、次世代、つまり若者が集える場所をイメージした酒井さん。お金がないために、やりたいことができない若者の気持ちは実体験としてよく分かる。雑貨店を経営していた経験があり、店を始めたい人の相談にも乗れる。見守り、手助けする場所として、シェアアトリエというのは何か表現したい人たちにはすごくいいと思えて、動き出した。

「そう決意したら、一緒にやろうと思える若者に出会ったんです」

インタビューした人々

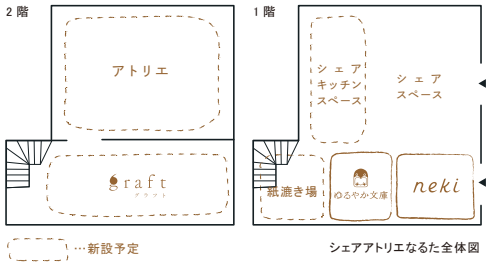
成田幸子さん
シェアアトリエなるたのオーナー。「自然派工房なるた」の屋号も持ち、和紙のアクセサリーを制作している。絵画、木工、デザインと、幅広く制作。

成田良治さん
埼玉から愛媛に帰ってきた成田さんの甥。料理上手でアトリエの運営に欠かせない存在だ。サイクリングが好きで、雪の日も写真を撮りに出かけていた。

酒井大輔さん
千葉県出身。graft 代表。木造建築士。シェアアトリエの設計を手がける。息抜きは、ギターの弾き語り。高校時代、フォーク部に在籍していたそうだ。

青山優歩さん
静岡県出身。東京、岐阜、徳島を経て、2018年に愛媛県へ移住。シェアするメンバーの一人。貸本屋「ゆるやか文庫」を運営。美味しいものを食べることが、自分へのご褒美。

空間をシェアする



シェアアトリエなるた全体図

ゆるやか文庫

グラフィックデザイナーの青山さんが集めた本や雑誌、絵本に触れることができる貸本屋。紙の質感や印刷、手仕事にまつわる独自の蔵書を楽しめる。絵本やリトルプレスも。紙をこよなく愛する仲間たちと「手と紙」の運営もしていて、手紙にまつわるイベントも開催している。写真下右のポストからは、実際に手紙が出せる。

http://yuruyakabunko.main.jp

neki- 和紙とあそぶ、和紙と暮らす

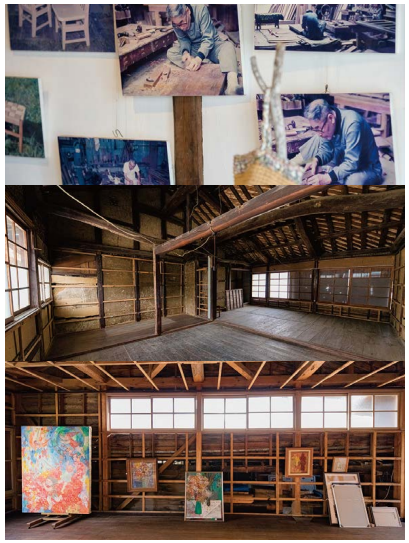
和紙職人・酒井真弓さんのショップ。大洲和紙やその雑貨を取り扱う他、イベントも開催している。今後は、紙漉き場を整え、制作を増やし、ものづくりに軸足を移していく予定だ。写真下左の和紙コースターは、真弓さんが紙を漉き、県内のクリエイター harinoki がデザインした原画を青山さんがシルクスリーンでプリントしたコラボ商品。

https://nekiwashi.theshop.jp

graft

古民家のリノベーション、伝統構法の住宅や店舗設計を手がける建築デザイン事務所。県内の現場を旅するかのように、駆け回っている。卯之町パールOTO（2 ページ）の改修にも携わった。シェアアトリエなるたの 2 階（写真の部屋）に事務所を構え、ゆくゆくは推奨する自然素材の建材に触れられる場に発展させる予定。

https://graft.life



シェアアトリエなるた

成田家具店の築 120 年の建物をリノベーションし、2階は現在も改修中。オーナーの成田さんのお父様の写真が飾られていて、家具工房であった当時を感じさせる（写真上）。2 階の大きな空間（写真中央）は、アトリエやギャラリーなど、様々な活用が期待される。成田さんの作品も残る。

シェアすることで世界が広がる

酒井さんが一緒にやりたいと思った若者の一人が、「ゆるやか文庫」を主宰する青山優歩さん。内子に移住する前は、徳島の阿波和紙伝統産業会館で和紙を販売する仕事をしていた。「neki」の酒井真弓さんが見学に来てくれた時に大洲和紙を知り、意気投合。2週間後に自ら内子を訪ね、伝統的な町並みを見たり、真弓さんと語りあった。そこで、「一つの産地の和紙だけでなく、和紙全体を広めて、残していきたい」という自分の軸が決まる。また、真弓さんが個人で活動している様子から、この地ならやりたいことが実現できる気がした。本来は慎重な性格という青山さんだが、この時は仕事も決めず、勢いで移住を決める。

本が趣味の青山さんにとって、本の紙質やパラパラとめくる手触りに浸る時間は至福のひと時。大切に集めてきた蔵書を公開してシェアしたいと思うようになる。「私が貸本屋を開くことで、個人で貸本屋を開く人がもっと増えたらいいなと思っていて。そんなお互いシェアしあう関係だったら、無理なく新しい情報にも触れられる」

そんな青山さんのアイデアを聞き、「うちの2階にスペースがあるからやってみたら」と背中を押してくれたのが、真弓さん。当時は内子の伝建地区の近くにneki の店を構えていた。そこを間借りし、押入れを本棚にしてスタート。酒井さんから声がかかり、今の場所に拠点を移した。

今後、真弓さんは、アトリエ内に紙漉き場をつくり、和紙職人としてオリジナルの和紙を作っていく予定だ。その紙も含めて、好きな紙を選び、活版印刷やシルクスクリーンで印刷する、そんな紙にこだわれる印刷所をつくる予定で準備を進める青山さん。ゆくゆくは、紙から出版物までのすべてをこの町内でできれば、というのが夢だ。

他にも、珈琲の焙煎人やエスニックの料理人も関わってくれるようになり、チームとして、できることが増えた。

仕事を生み、それをシェアして発展させていく、そんな循環を願う酒井さん。「若者がどんどん来て、巣立つ場所になればいい」とシェアするその先を描いていた。

シェアアトリエなるた
愛媛県喜多郡内子町五十崎甲 912-9
問い合わせは、DM 等でシェアメンバーへ
連絡を。

えひめのお取り寄せで お家時間

愛媛の味や香り、手触りをお取り寄せ。
お家で、愛媛を感じてみてください。
※価格は、税込み価格です。

【今治市】 09
素足で感じる心地よさ
オーガニック 120 ルームシューズ S

今治タオルのルームシューズ。直接素足に触れる部分はオーガニックコットン 100% のパイルのみで、クッションのように弾力ある履き心地。4620 円

問合せ／IKEUCHI ORGANIC
https://www.ikeuchi.org

【西予市】 10
甘い香りで潤う、ボディケア
**yaetoco ボディケア
家族ハンドクリーム（伊予柑）**

無茶々園の伊予柑から抽出した精油と副産物の蒸留水を使ったハンドクリーム。心落ち着くやさしい香りで、べたつかない使用感。60g 1650 円

問合せ／株式会社地域法人無茶々園
https://yaetoco.jp

【今治市】 11
柑橘農家が届ける島の香り
島いよかん精油

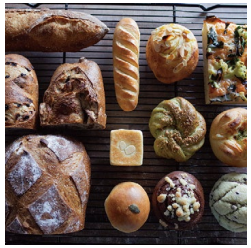
大三島で栽培された無農薬栽培の伊予柑の精油。爽やかさの中にほんのり甘みのある香りで、リフレッシュとリラックスに。3mL 1800 円

問合せ／シトラス＆アロマ 島香房
https://shimakobo-omishima.com

【内子町】 06
柑橘の美しさと美味しさを一瓶に
ブラッドオレンジシロップ煮

宇和島の柑橘農家の旬のブラッドオレンジ（タロッコ）をスライスして閉じ込めた一瓶。控えめな酸味とコクのある甘みが特徴。250g 1512 円

問合せ／GOOD MORNING FARM
https://gmf.base.shop



【今治市】 07
愛媛の旬をパンにのせて
**まるまどの通パン
「旬のパン 13 種のおまかせセット」**

素材にこだわり、その美味しさに人気の大三島のパン屋「まるまど」の月1定期便。購入は instagram での告知を要チェック。13 種 3200 円

問合せ／まるまど
https://www.instagram.com/marumado.bakery

【伊方町】 08
3 種の蜜を食べ比べ
**はちみつ 3 種セット 120g×3 本
＜みかんの花・春・夏＞**

愛媛の佐田岬半島で養蜂した、非加熱天然はちみつ。香り高いみかんの花、ハーブのような後味の春、フルーティな夏の 3 種類。3 種 3380 円

問合せ／完熟屋（佐田岬共販）
http://www.kanjyukuya.com

【西予市】 03
肉好きにはたまらない一皿
はなが牛キーマカレー

独自ブレンドのスパイス、丁寧に煮出した出汁と野菜の甘みが加わったカレーはご飯が進む。
150g 972 円

問合せ／株式会社ゆうぼく
https://yuboku.ocnk.net

【西条市】 04
手がとまらないお米のお菓子
**ポン菓子４種詰合箱
(キャラメルナッツ/伊予柑/えひめのハダカ麦と玄米チョコ/苺チョコ)**

地元契約農家の米を使用したポン菓子。伊予柑など愛媛の味も楽しめる。写真は冬春限定商品（4 種 2078 円）。時期によりセット内容・価格の変更あり。

問合せ／ひなのや
https://hinanoya.shop-pro.jp

【四国中央市】 05
香り高いお茶で一服
**かんきつ紅茶（Basic・Spicy）
しょうが烏龍茶**

愛媛のお茶どころ四国中央市新宮町でつくられた柑橘ブレンドの紅茶と烏龍茶。ほっと一息ティータイムに。3g×8 個入り 648 円

問合せ／有限会社 脇製茶場
http://www.waki-tea.co.jp

【宇和島市】 01
お刺身やムニエルに
まるごと真鯛セット

出荷当日の朝に活きメした真鯛を調理しやすく加工。槽状フィーレ 4 枚、カマ付き頭（2 分割）、ハラミ 2 枚（約 1.5kg の真鯛 1 尾分）のセット 3240 円

問合せ／企業組合こもねっと
http://komo-net.shop-pro.jp

【松山市】 02
瀬戸内の島で育った力強い味
完全無農薬レモン

忽那諸島・中島で、殺虫剤や除草剤、化学肥料を使わずに育てたレモン。安心して皮ごと料理に使える（P14 のレシピ参照）。2kg 3240 円

問合せ／清水果樹園
https://shimizu-fruitfarm.com

愛媛の人・地域とつなぎます

東京と愛媛の窓口で、えひめ移住コンシェルジュがお待ちしています。愛媛暮らしの魅力を熱く語ります。

コンシェルジュに会える　愛媛ふるさと暮らし応援センター

県内にはさまざまな地域があります。ぜひお気に入りの地域を見つけてくださいね。オンラインでの移住相談も行っています。お気軽にご連絡ください。

愛媛県は、海や島、山、まちが近く、様々な環境に合ったライフスタイルが実現できる場所。みなさんにとってのほっと息抜きできる場所がきっと見つかるはずです。

えひめ移住コンシェルジュが常駐していますので、えひめのことを詳しく聞いてみたい方は、お気軽にご相談ください。漠然としたお話も大歓迎です！ お仕事、住まい、生活環境など移住前に気になることはもちろん、移住後もご相談いただけます。メールやお電話など、ご都合の良い方法でご連絡ください。オンラインでの対面相談も行っています。

えひめで暮らそう！ 愛媛県移住ポータルサイト
えひめ移住ネット

東京窓口／松原香織
TEL：080-7749-3244
Mail：ehime@furusatokaiki.net
東京都千代田区有楽町 2-10-1
東京交通会館 8 階
（NPO 法人ふるさと回帰支援センター内）
電話が繋がらない場合は、ふるさと回帰支援センター（TEL：03-6273-4401）までご連絡ください。

愛媛窓口／板垣義男
TEL：089-922-4110
愛媛県松山市宮西 1-5-19
（愛媛県商工会連合会館 3 階
えひめ地域政策研究センター内）

愛媛在住のメンバーがサポート　一般社団法人 えひめ暮らしネットワーク

一般社団法人 えひめ暮らしネットワーク EHIME LIFE NETWORK

2020 年に設立された（一社）えひめ暮らしネットワークは、えひめ移住コンシェルジュ・地域おこし協力隊が中心となり、『愛媛で自分らしく暮らし働く』をコンセプトとする、ネットワーク組織です。登録しているネットワーク会員は、現役地域おこし協力隊のみならず、地域おこし協力隊 OB・OG、県外からの移住者、地元経営者やフリーランスなど様々。私たちはこのネットワーク会員をつなぎ合わせ、会員メンバーそれぞれの活動を支援しています。

事業内容
①愛媛県の移住相談窓口での相談対応を中心とした愛媛県全域の移住促進に関する企画運営
②愛媛県内の地域おこし協力隊を対象にした、普段の活動での悩みなどに対応する相談デスクや研修会の企画運営などによる定住支援
③補助金、セミナー等の情報提供、ネットワークを駆使した人材マッチング、コワーキングスペース運営などの起業支援

一般社団法人 えひめ暮らしネットワーク
愛媛県松山市宮西 1-5-19 愛媛県商工会連合会館3階

2021 年 3 月発行
発行：愛媛ふるさと暮らし応援センター　東京窓口　制作：一般社団法人 えひめ暮らしネットワーク　撮影：徳丸哲也、重岡真美　執筆：ハタノエリ、新居田真美　デザイン：青山優歩（ゆるやか文庫）
※掲載データは 2021 年 3 月現在のものです。情報の内容は変更される場合があります。
本誌記事、写真の無断複写、及び転載を禁じます。

まちに暮らす、あの人たちの息ぬき

仕事もしくは所属している活動で、楽しそうな人たちの息ぬきをご紹介。
楽しみを自分で見出す人たちの息の抜き方とは。

データの見方
① お仕事
② 愛媛在住歴
③ 活動していること、活動の場
④ 私の息抜き

山口信夫さん
① 大学教員
② 8 年（通算 11 年）
③ 愛媛大学社会共創学部でフィールド教育と地域商業研究を実践しています。
④ 登山ですが、もはや仕事（フィールドワークや研究）それ自体が息抜きに近いです。

板東ゆかりさん
① まちづくりディレクター
② 移住してもうすぐ 3 年
③ 松山アーバンデザインセンター
④ 季節の花を砥部焼の器に生けて、部屋に飾ってニマニマすること。

牧賢一郎さん
① 会社員。
奥さんのお店「めし SAKE 珈琲（takamoto_bldg）のレコード収集と珈琲焙煎。
② 2013 年 4 月大阪からの移住。8 年目に。
③ Diggin' in the city（都市を掘る）
④ 散歩ではなく都市を掘る。中古レコード屋、古本・古着・古道具屋を掘る活動からいつしか、都市を掘る。時に酩酊しながらも、徘徊ではなく、都市を掘る活動をしています。

白石卓央さん
① 建築の設計
② U ターンして 8 年
③ 建築設計のかたわら、地元松山の建築やまちの魅力を伝える活動を行っています。
④ 温泉・銭湯

青砥穂高さん
① 公務員
② もうすぐ 5 年
③ BAMATSUKAI（仮）、今治ホホホ座、覚醒チンドンネットワークなど
④ 友人たちとチンドン屋をやってます。写真は一昨年のクリスマスに道後商店街を賑やかした時のものです。

竹野はるか さん
① 会社員
② 5 年目
③ 大人の児童書目録（実はけっこう深くて考えさせられる「児童書」レビュー記事作成）
④ 子どもの時に読んでいた絵本や児童書を再読して、大人になって忘れつつある「童心」を取り戻す。いくつになっても「遊び心」って大事。

竹内仁美さん
① 団体職員
② U ターンして 7 年
③ 本にまつわるイベントの企画運営（松山ブックマルシェ、滑川 BOOK CAMP など）
④ 自転車に乗って近所を探索すること。

新居田真美さん
① フリーの編集者
② U ターンして 8 年
③ Noto Aburi Project（国産の七輪と炭の魅力を伝える）
④ 炭火を熾して、愛媛のうまいものを七輪でじわじわ炙って食べること。